

第18回孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事会 議事次第

令和6年3月13日（水）
17：00～18：00
（オンライン開催）

1. 開会

2. 議題

（1）担当幹事からの報告

- ・令和5年度 孤独・孤立対策に資する NPO 法人等への調査（調査報告書）

（2）分科会等

- ・分科会1（「つながりサポーター」養成の検討について）
- ・分科会3（2/22 担当幹事会）
- ・孤独・孤立対策に資する官民・民民連携による特色ある取組の推進

3. 報告事項

- ・令和5年度第2回シンポジウム開催結果
- ・令和5年度通常総会の事前表決結果
- ・令和5年度通常総会・関連イベントについて

4. その他

- ・令和6年5月「孤独・孤立対策強化月間」について
- ・令和6年度関連スケジュールについて

5. 閉会

【配付資料】

- | | |
|-------|--------------------------------------|
| 資料1 | 令和5年度 孤独・孤立対策に資する NPO 法人等への調査（調査報告書） |
| 資料2 | 分科会1（「つながりサポーター」養成の検討について） |
| 資料3 | 分科会3（2/22 担当幹事会） |
| 資料4 | 孤独・孤立対策に資する官民・民民連携による特色ある取組の推進 |
| 資料5 | 令和5年度第2回シンポジウム開催結果 |
| 資料6 | 令和5年度通常総会の事前表決結果 |
| 資料7 | 令和5年度通常総会・関連イベントについて |
| 参考資料1 | 令和6年5月「孤独・孤立対策強化月間」について |
| 参考資料2 | 令和6年度関連スケジュールについて |

令和5年度 孤独・孤立対策に資するNPO法人等への調査 現地調査報告書 概要版

2024/3/13

孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム事務局

(1) 現地調査の企画・設計

① 目的・仮設設計

現地調査の目的は、全国のNPO法人等を対象に実施した「令和5年度 孤独・孤立対策に資するNPO法人等へのアンケート調査」により得られた示唆について、「他団体等との連携のなかで『つなぎ』の機能が介在し、かつ、当事者への支援拡充に直接的な効果を生んだ事例」の掘り下げを目指す、以下とした。

アンケート調査で得られた上記の示唆について、孤独・孤立の解消を直接的・間接的な目的としている団体等が連携した取組のなかで「『つなぎ』の役割を果たす中間支援機能が、孤独・孤立対策等の取組において当事者への支援拡充等の直接的な効果の実現にどのように貢献し得るのか」、「中間支援機能を活用した効果的な連携のためにどのような工夫がなされているのか」の実態を明らかにする

上記の目的を設定した背景には、孤独・孤立対策の推進において、令和4年度の分科会2中間報告でも「つなぎ」の機能の重要性が示され、また令和5年度には内閣官房「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査」において中間支援組織に焦点をあてた調査事業が実施されるなど、「つなぎ」や「中間支援」が重要であるという考えが次第にひろがっていくなかで、「具体的に『つなぎ』の機能とはどういった役割を果たし、孤独・孤立対策にどのように資する機能なのか」のヒントを得ることで、地域における中間支援機能を有する団体などの多様な団体との連携の活性化への貢献することへの期待がある。

② 質問設計

各団体へのヒアリングの質問項目は、対象となる全団体に質問すべき共通の項目をあらかじめ設計し、ヒアリングを進める中で各団体の事業・事例内容にあわせて質問を調整した。事業・事例の基礎理解を深めると同時に、「目的に対する答えを導き出せる質問であるか」という観点から設計した。

質問項目は下表（表1）のとおりである。上記のとおり、実際のヒアリングでは各団体の事業内容や事例の特徴に合わせて質問を調整している。

表1 ヒアリングの質問項目（例）

テーマ	ヒアリング項目
団体概要	・ 創業年 ・ 団体のビジョン/ミッション ・ 団体の事業概要 ・ 職員数 ・ 活動地域

他団体との連携した取組の事例について	・伺いたい連携の取組の事業内容/事業規模/対象者層 ・連携先の団体/それぞれの役割（体制） ・連携に至った背景（いつ/誰が発案し/何を目的に/なぜその人たちが/どのような事業体・推進体制として） ・「つなぎ」の機能（コーディネート/ネットワーク）を提供した団体はどこか ・「つなぎ」の機能が介在したことによる、団体や事業・取組の変化 ・他団体との連携の取組によって具体的に実現した効果/成果（受益者への支援拡大や課題解決への貢献） ・なぜその効果/成果が得られたのか、うまくいったのか（特に中間支援機能が果たした役割はなにか） ・複数の団体との連携を行ううえでやっている工夫/意識していること
中間支援機能の役割	・他団体との連携した取組を行ううえで、「受益者への支援拡大や課題解決等の成果を得る」ことに関して感じている課題はなにか ・その課題を解消するために、他団体との連携で行っている工夫はあるか ・受益者への支援拡大や課題解決のために、「つなぎ」の機能や中間支援機能が果たせる/果たすべき役割はなにか

③対象設計

現地調査の対象は、他団体等との連携のなかで「つなぎ」の機能が介在し、かつ、当事者への支援拡充に直接的な効果を生んだ事例を有する団体とし、「令和5年度 孤独・孤立対策に資するNPO法人等へのアンケート調査」で、「中間支援機能に示す役割（『つなぎ』の機能）を担った団体や個人と連携することで実現したことがあれば、すべて選択してください」の問いに対し、以下3つ全てを選択した団体の事例のうち、5団体を対象に実施した。

- ・ 3) これまでアクセスできていなかった支援対象者へのアクセスが確保でき、支援対象の数や属性の拡大が実現した
- ・ 4) 他組織と連携することにより自団体のみではできない支援手法や課題解決手法の実施が可能になった
- ・ 6) 支援活動や課題解決のための取組の実施頻度を増やすことができた

(2) 現地調査の実施

①調査対象

現地調査の対象としては、以下（表2）の5団体を選抜した。各団体の調査でどのような事例について深掘りできそうかについても予め以下のように定めた。

表2 対象団体と事例の特徴

#	対象団体	事例の特徴（どのような事例か）
1	NPO法人 やどかりサポート鹿児島	・ 保証人制度の支援、居住支援の事例 ・ 受益者への支援の質向上のためにコーディネートやネットワーク機能を活用し連携を促進していくことが重要であるとして取組を実施されており、連携における中間支援機能の役割となにかをヒアリングできる事例

2	認定NPO法人 宝塚NPOセンター	・ シングルマザーハウス向け住宅支援の事例 ・ シングルマザー支援の取組では、自らが支援主体となるだけでなく企業の事業参入の実現等、多様な主体の参入を促し課題解決に繋げる工夫がみられる事例
3	NPO法人 セカンドスペース	・ 不登校・ニート・ひきこもりの方の社会復帰支援の事例 ・ 施設を利用する受益者が、他団体との連携を通じた取組から収入や就労機会を得る等、「課題解決に繋がる効果の実現」が連携によってみられる事例
4	社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会	・ 若者支援を中心に複数の取組を実施している事例 ・ 他団体と連携しながら様々な事業を展開しており、様々な分野で多様な主体の参入を促し課題解決に繋ぎ、資金獲得等の自団体の課題も解決する工夫がみられる事例
5	NPO法人 日本スケートパーク協会	・ スケートパークの企画・運営が孤独・孤立対策や予防につながる事例 ・ 孤独・孤立対策を主目的にはしていない「他業種」の団体ではあるが、エンタメやイベントの場を通じた課題当事者の社会進出やコミュニティ形成を実現している、予防に関わる事例

②実施方法

現地調査の実施形態としては、原則、各団体の活動場所を訪問し、担当者にインタビュー形式で対面でヒアリングを行った。現地でのヒアリング・視察は一般社団法人RCFが実施し、特定非営利活動法人日本NPOセンターが一部同行した。

各団体への調査協力への依頼方法としては、アンケート調査協力団体については回答に記載された連絡先に依頼内容をメールにて送付した。協力の許可を得た後、各団体に調査依頼の詳細を記載した文書を送付し、必要に応じて質問シートを事前に送付し調査実施前に基礎情報を収集した。

③調査期間

現地調査の実施期間としては、準備・報告書作成を含めて以下のスケジュールで実施した。

- ・ 令和5年11月下旬～：調査準備
- ・ 令和5年12月下旬～令和6年1月中旬：調査実施
- ・ 令和6年1月下旬～2月下旬：報告書まとめ

④調査実施日時・場所・参加者

各団体の現地調査は下記（表3）の日程・場所・参加者にて実施した。原則、各団体1.5～2時間でヒアリング・視察を実施している。

表3 各団体の調査実施内容

#	対象団体	項目	詳細
1	NPO法人 やどかりサポート鹿児島	日時	令和5年12月22日（金）10:00～12:00
		場所	やどかりサポート鹿児島 事務所

		参加者	・ やどかりサポート鹿児島 理事長 芝田淳氏 中芝あすか氏 牧之角康太氏 花岡真先氏 ・ RCF 井口香穂
2	認定NPO法人 宝塚NPOセンター	日時	令和5年12月26日（火）16:00～18:00
		場所	宝塚NPOセンター 事務所
		参加者	・ 宝塚NPOセンター 理事長 中山光子氏 ・ RCF 前田絵麻
3	NPO法人 セカンドスペース	日時	令和6年1月12日（金）12:00～14:00
		場所	セカンドスペース 事務所
		参加者	・ セカンドスペース 理事長 成瀬榮子氏 ・ 日本NPOセンター 事務局長 吉田建治氏 ・ RCF 井口香穂
4	社会福祉法人 苫小牧市社会福祉協議会	日時	令和6年1月16日（火）13:00～15:00
		場所	苫小牧市社会福祉協議会 事務所
		参加者	・ 苫小牧市社会福祉協議会 総合支援室室長・地域福祉課課長 千寺丸洋氏 ・ RCF 前田絵麻
5	NPO法人 日本スケートパーク協会	日時	令和6年1月17日（水）9:00～11:00
		場所	日本スケートパーク協会 事務所
		参加者	・ 日本スケートパーク協会 理事長 河崎覚氏 ガバナンス監査役 岡本知子氏 ・ RCF 井口香穂、清水拓人

(3) 現地調査結果

調査の結果、下表のとおり、各団体についての特徴（表4）及び調査の総括・示唆（表5）を得られた。

表4 各団体の事例の特徴

#	団体名	事例の特徴	特徴の概要
1	NPO法人 やどかり サポート鹿児島	①本当に必要な支援を提供するための仕組みが地域に生まれている	・ 身寄りや継続的な見守り支援を受けることが難しい人等が互助的な社会的関係を作り、生活していける居場所と仕組みを作っている。
		②仕組みのなかから生まれた役割と当事者をつなぐことで、必要な支援提供が持続的な機能として定着している	・ 居場所・仕組みを提供した結果、自然と利用者のなかから支援側にまわる役割が生まれ、「家族機能の社会化」を実現させている。 ・ 「支援や解決策に繋ぐ」ことを全て専門職がやるのではなく、元々家族機能として存在していた部分は当事者同士の力を活かし、そうした機能が地域に根づく仕組み作りを行っている。
2	認定NPO法人 宝塚NPOセンター	①取り組む事業の優先順位づけと取捨選択を意識的に行うことで、中間支援機能の強化に繋げている	・ 取り組む案件の優先順位づけをするために団体のミッション/ビジョン/バリューを再設定し、自分たちが「何者なのか」を改めて自認する機会を作った。 ・ 事業の取捨選択基準として、一定の事業規模（収入）を超えないこと、過去の実績を踏まえて十分な価値を発揮できない仕事には手を出さないということを定めた。 ・ 就労支援と中間支援の2つの事業の柱に絞り、自身が主体となって地域内外の複数の関係者を巻き込みながらシングルマザーへの多角的な支援を提供。
		②支援事業に対する当事者意識の醸成	・ 自主事業に注力することで、職員の働く意欲や得られる知見にも良い影響が生まれている。 ・ 受託事業に加え、独自の自主事業を持つことで、収入源を受託先に依存し切らないという経済的基盤の安定につながるとともに、共感や支援の和を広げることにつながっている。
3	NPO法人 セカンドスペース	①地域内の支援者と連携したプログラムを提供している	・ 様々なプログラムや事業において地域内の多種多様な機関と連携できる体制が整っている。

			・ 利用者側から繋がりを拡大する場合もある。
		②当事者に「責任感」を醸成し、社会参加に繋がるきっかけを提供している	・ きっかけを提供することで、当事者に役割が生まれ、社会参加のために必要な体験を得ることができている。 ・ 当事者の得意なことの中でできることをヒアリングし、当事者が活躍することのできる場やきっかけを提供することで、自分の立場・役割に責任を持ちやり切る経験を得て、社会参画のきっかけをつくっている。
4	社会福祉法人 苫小牧社会福祉協議会	①地域の人々が自らの意思で支援者になれる仕組みを持っている	・ 地域の人々が支援を行うきっかけをつくることによって、多くの地域住民が苫小牧社協の取組に関心を持つようになるだけでなく、苫小牧社協が地域の人々の「何かお手伝いできるかもしれない」という気持ちを具体的な支援ニューに繋げることで、地域の協力を引き出し、支援の拡大を実現している。
		②あえてクローズドな環境を築き、安心して通える居場所を提供している	・ 広報については控えめにし、社会福祉協議会と関わりのある家庭や親子、その友人、知人、そして市役所の子ども相談課や青少年課の職員による紹介や口コミが主となって、活動に対する認知が広がっている。 ・ 職員が子どもたちの状態に応じて柔軟に対応し、信頼関係を築くことに努めている。 ・ 連絡手段として、LINEや電話でやり取りできる職員が増え、相談しやすい環境を整えている。
5	NP0法人 日本スケートパーク協会	①地域の管理者・利用者・非利用者による合意形成を重視し、支援している	・ 公共スケートパーク設置に関する意見集約を担う地域の利用者団体の立ち上げ支援や、地域の振興に関心がある人たちとの対話の場の設置等、非利用者の人たちに理解し、話を聞いてもらうための巻き込み方についてのスキームを有している。 ・ 対話の場に出てこない住民の意見や反対意見が地域には存在することを意識するよう働きかけ

			ている。
		②スケートパークが地域の居場所であり続けるために、利用者・非利用者に役割を生み出している	- 地域の非利用者、利用者、行政や教育関係者等、様々な立場の人が関わることで、スケートパーク内でルール違反や許容を超える行動があった場合に、適切に声をかけ、スケートパークの適切な利用へと導くという体制が整っている。 - 結果として、誰も排除せず、全員がその場所や利用者を思う厳しい地域の目が形成され、スケートパークの持続可能な運営に貢献している。

表5 現地調査の総括・示唆

テーマ	「つなぎ」の機能が介在することで、当事者への支援拡充に直接的な効果を生んだ事例の特徴と示唆
総括	①支援が広がる余地のある仕組みや場をつくり、役割と人をつなぐことで地域内の支援者（プレイヤー）が拡大する。 「何かに取り組みたい」「何か支援をしたい」という意思をもった人の行動を後押しし実現する余地のある仕組みがあること、団体がそうした人々の力を引き出そうと支援者としての役割に繋ぐことにより、課題解決に繋がる支援機会の拡充が実現。 「役割と人をつなぐ」ことの実現には、取組の実施主体である団体が「支援において必要な役割はなにか」を細かく分解して把握できていることが重要。 - 支援者個人の役割を維持定着させるためには、役割や立場を仕組みの中で保証していくことが重要。 ②取組に主体的に関わり続けられる団体がいることで、効果的な地域内連携が創出・維持される。 「つなぎ」の機能を提供する団体自身がより取組に主体的に関わることができるような組織基盤の強化や事業形成を目指すことも、地域内連携をより効果的なものにする工夫の一つ。
示唆	- ネットワークやコーディネートと言われるような「つなぎ」の機能が取組に介在する効果として、当事者や地域内のステークホルダーに役割が生まれ、取組のプレイヤーとなることによって、自団体だけではやりきれない支援を補完する機能が生まれたり、支援メニューの拡充に繋がっている。 - そうした他者が「やりたい」と意思をもったときに参加し支援者となれる余地をもつために、取組の実施主体である団体が「支援において必要な役

	割はなにか」を細かく分解して、支援者となり得る人や団体を見つけた際に必要な役割や責任を渡すことができる状態を意識することが重要。 ・ 「つなぎ」の機能によって拡充された支援を定着させ維持する次のステップとして、「地域で必要な支援が提供され続ける状態を実現する仕組み化・事業化」の検討が重要ではないか。 ・ 「つなぎ」の役割を提供する団体や、取組において重要な役割を果たす団体が地域のなかで中長期的に事業に関わり続けられる建付けの事業の検討も重要ではないか。
--	--

令和 5 年度 内閣官房
孤独・孤立対策におけるサポーター養成の
カリキュラム作成等に係る調査等業務

第四回検討会



令和6年3月12日(火)

©Ridilover CO., LTD. All Rights Reserved.

1

本日の検討会内容について

1. 試行実施の結果に関するご共有・フィードバック（50分）
2. テキスト案（子ども版）のご共有・フィードバック（50分）
3. 次年度以降の本格実装を見据えたディスカッション（20分）

©Ridilover CO., LTD. All Rights Reserved.

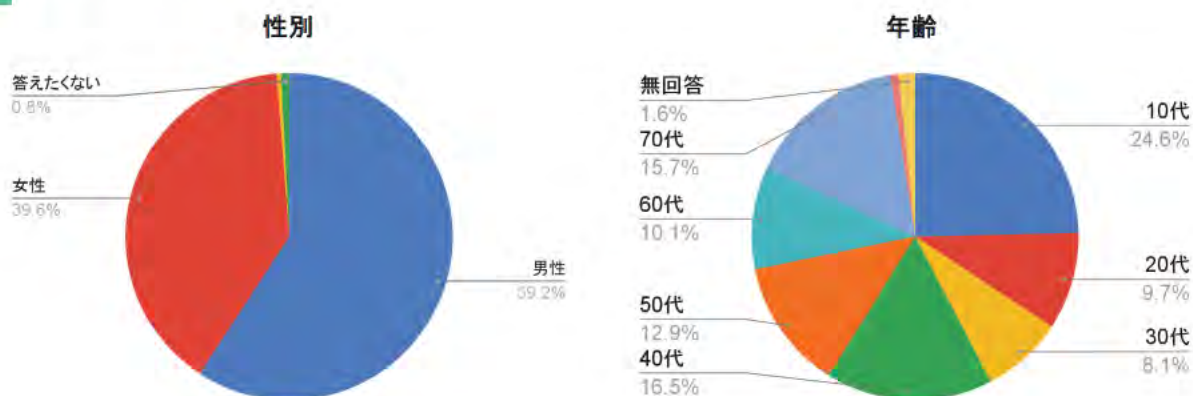
2

1. 試行実施の結果に関する ご共有・フィードバック

©RIVERCO, LTD. All Rights Reserved.

3

アンケート結果



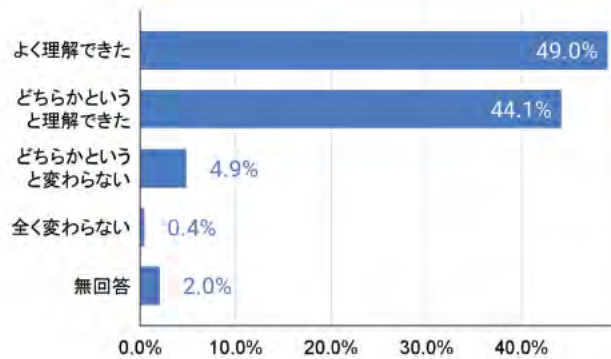
<参加者属性・参加人数>

- 日本工学院 参加者：ミュージックアーティスト科 1年生・2年生 参加人数 79名
- 鶴岡市 参加者：社協、民生委員、市役所の方々など 参加人数 46名
- 登別市 参加者：民生・児童委員、包括支援センター、市役所の方々など 参加人数 46名
- 生駒市 参加者：民生・児童委員、包括支援センター、市役所の方々など 参加人数 19名
- 日本生命（オンライン・オフライン） 参加者：社員の方々 参加人数 58名

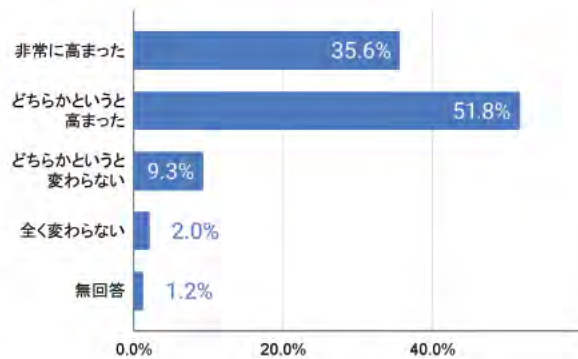
©RIVERCO, LTD. All Rights Reserved.

アンケート結果

Q1. 本講座を受講する前と比べて、
孤独・孤立に対する理解に変化はありましたか？



Q2. 孤独・孤立の問題について
興味・関心は高まりましたか？

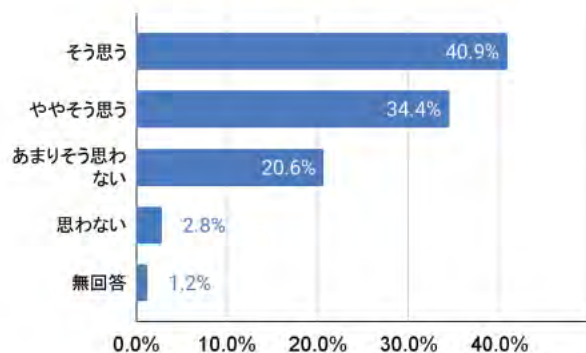


©Rii iwerCO, LTD. All Rights Reserved.

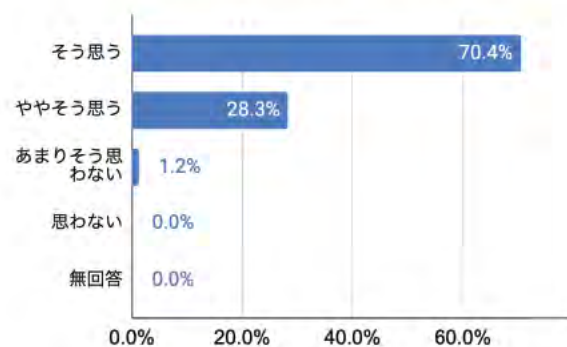
5

アンケート結果

Q3. 自分が悩みや困りごとを抱えたとき、
相談窓口を活用しようと思いますか？



Q4. 周囲に悩みや困りごとを抱えている人がいたら、
できる範囲でサポートしようと思いますか？



＜Q3「あまりそう思わない」の理由＞

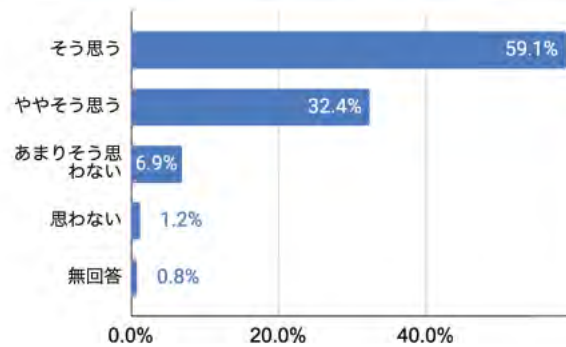
- まず周りの人たち（友人、身内）に相談したい（日本工学院、登別市、生駒市、日本生命）
- 他人に自分の悩みを知られたくない（日本工学院、登別市、日本生命）
- 自分で解決しようとするから（日本工学院、登別市、日本生命）
- すでに身近に相談できる人がいる（鶴岡市、日本生命） など

©Rii iwerCO, LTD. All Rights Reserved.

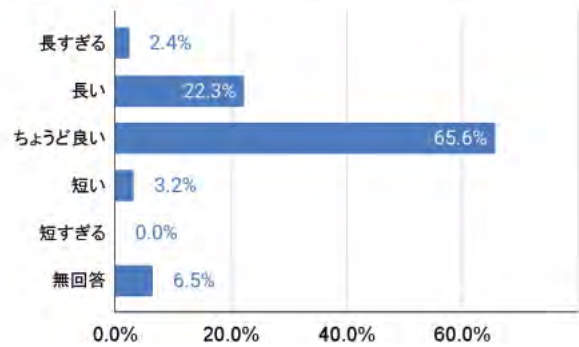
6
11

アンケート結果

Q5. 周囲の人が悩みや困りごとを抱えているとき、相談窓口を勧めようと思いますか？



Q6. 本講座の時間について教えてください。

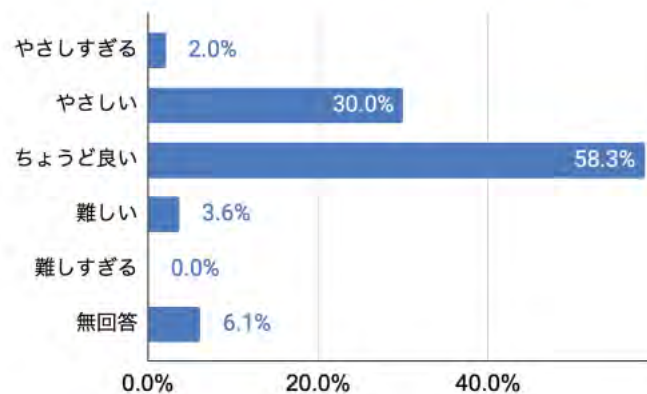


＜Q5「あまりそう思わない」の理由＞

- 先に窓口を勧めたら話を聞く気がないと伝わりそうだから自分が先に聞いてあげたい（日本工学院）
- 使ったことがあるけどあまり良くなかったから（日本工学院、日本生命）
- 自分が活用したことないものを他人にすすめるのはあまり気がのらない（日本工学院）
- 相談窓口に行く前にできることがある。相談を聞いてから考えたい（日本工学院、登別市）など

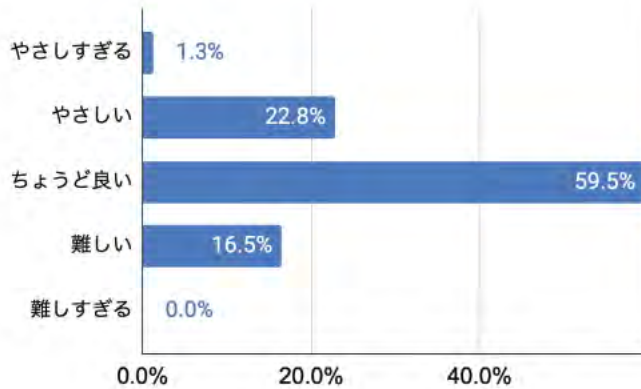
アンケート結果

Q7. テキストの内容のわかりやすさを教えてください。



アンケート結果

Q8. 高校生にとってもわかりやすい内容だと感じますか？
(日本工学院)



<「やさしい」の回答理由>

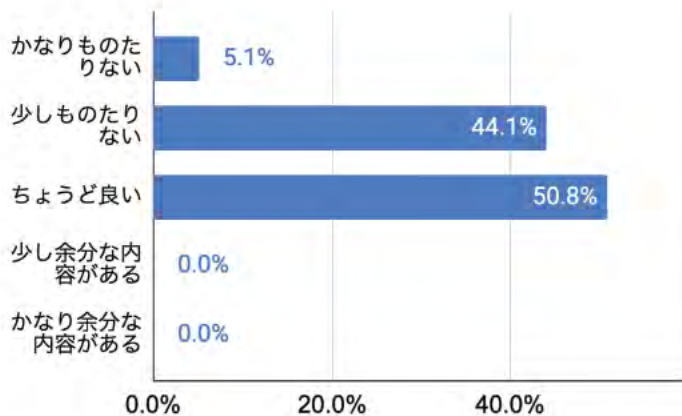
- 高校生関係なく孤独・孤立の説明はわかりやすかった
- 専門用語が多すぎないから
- グラフなど視覚的にわかりやすかったなど

<「難しい」の回答理由>

- 政府の機関とかわからないと思うから
- 高校生のころの自分だとあまり想像つかないと思ったから
- 孤独の概念という話し出しではじめるのは少なくとも難しいと思いましたなど

アンケート結果

Q9. 企業の研修等で使う場合に、内容は十分と感じますか？
(日本生命)



<「ものたりない」の回答理由>

- 相談窓口や各種講座の情報をもっと具体的に知りたい
- 日常生活にどうつなげるか想像しづらい。孤独を感じている人の見つけ方（特徴）や声の掛け方、工夫を学べると行動しやすい
- 困っていることを言い出せない人に対する行動や態度などを知りたい
- 研修対象、研修目的、研修効果をどのあたりに設定するかよく見えないためなど

アンケート結果：サマリー

<Q1～2 孤独・孤立への理解の深まり、興味関心の醸成について>

- 「理解できた」「興味関心が高まった」の回答の割合が高く、理解増進、興味関心の醸成は達成できている

<Q3～5 相談窓口の活用、他者へのサポートへの意欲について>

- 「そう思う」「ややそう思う」と回答している割合が高く、窓口の活用やサポートへの意欲は高まっている

<Q6 講座の時間について>

- 「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、講座の時間は60分が適切と考えられる

<Q7 テキストの内容のわかりやすさについて>

- 「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、現状の難易度が適切と考えられる

<Q8 高校生にとってのテキストの内容のわかりやすさについて>

- 「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、高校生は大人版の受講者に含めて良いと考えられる

<Q9 企業の研修等で使う際の内容の過不足について>

- 「ちょうど良い」と回答している割合が最も高く、ついで「少しものたりない」が高い
- 要因：今回の受講者は日頃から孤独・孤立の問題に接しており、すでに興味関心を持っているため、内容に少しものたりなさを感じたと考えられる（詳しくは次ページへ）

<オンライン実施について>

- オンライン/オフラインで回答結果に違いは見られなかったため、オンラインでの実施も念頭に置きつつ、試行実施において、グループワークなど受講者間での交流を求める意見も見られたため、講座の実施方法については、両者の兼ね合いも踏まえて検討する必要がある。

講座・テキストへのご意見：具体のアクションについて（テキストp24～p27）

【委員の皆様よりご意見いただきたい点①】

これまでの議論を通じて、現状は当事者性の高い方々に配慮し

- 「傾聴」などの具体的・専門的なアクションについては記載しない（別養成講座につなげる）
- 「気にかかる」など、ハードルの低いアクションを記載する

としております。

この点について、試行実施の中で

- 「気を配りすぎてふわふわした話になりすぎ。漠然としてよくわからなかった」
- 「聞き取ることの最低限のスキルや、相手の気持ちに寄り添うヒントが知りたい」

といった、より具体的なアクションを求める意見がございました。

※主に自治体（社協、民生委員）、企業（日本生命株）の受講者から寄せられているが、日本工学院のアンケートでも「身近で悩んでいる人を支えるにあたってのワンポイントアドバイスがあってもよい」との意見があったところ

本講座は「普及啓発」が目的であり、具体的なスキル（人材養成）は別養成講座で行うという方針である一方で、普及啓発に寄りすぎると、参加者が自ら積極的に参加しなくなる可能性もあるかと存じます。

上記課題感を解消し、次年度以降、普及啓発という主旨は大きく変えずに、受講者にとってつながりサポーターの役割をより明確にイメージしていただくためにはどのような工夫がありうるのか、ご意見を伺いたく存じます。

講座・テキストへのご意見：講師の説明について

【委員の皆様よりご意見いただきたい点②】

現状のテキストには「アイスブレイク」のパートを記載しておりませんが、講師の方々から

- 最初の場のあたため方が難しい

というご意見をいただきました。

これまでの議論では、たとえば「日常のつながりを考えてみよう」というアイスブレイクは、「自分にはつながりがない。孤独だ」というスティグマ化の懸念があったため、テキストから外しておりました。

については、スティグマを形成せず、また、誰が講師を務める場合でもアイスブレイクが可能となるよう、どのような話題やテーマが考えられるのか、アイデア等ございましたら伺いたく存じます。

＜ご参考：今回の試行実施で冒頭に行なったこと＞

- 日本工学院：行わずに実施
- 鶴岡市：「日常のつながり」を考えてもらうワーク ※実施先と相談の上、受講者の属性から大きなリスクなしと判断
- 登別市：行わずに実施
- 生駒市：講師（井澤様）の自己紹介。普段のご活動、検討会委員としてのお話等
- 日本生命：講師（清水様）の自己紹介。普段のご活動、検討会委員としてのお話等

講座・テキストへのご意見：講師の説明について

【委員の皆様よりご意見いただきたい点③】

受講者の方々から、講師の説明に関して

- もう少し楽しく、わかりやすく聞けるとよい。説明が淡々としていて長い
- 例え話や、面白いと思える話題があるとうれしい

といったご意見もいただきました。（主に学校、自治体より）

さらに、

● 写真、DVD、劇、映像（ドキュメンタリーやインタビュー）など視覚的にも面白みがあると興味もわく
とのご意見もあり、これらは受講者を飽きさせない工夫として、今後検討の余地があると考えております。

については、今後のお話にはなりますが、

ライト層がより興味を持ちやすい仕組みとして、上記の工夫以外にアイデア等ございましたら伺いたく存じます。

また、鶴岡市と生駒市の試行では、講師2人体制で分担して講座を実施しましたが、講師の負担軽減とともに講座に変化を持たせ受講者を飽きさせない観点から、このような講師2名による分担方式（自治体職員＋社協など）も有効であると考えておりますが、これについてもご意見いただければと存じます。

講座・テキストへのご意見：ワーク等について

【委員の皆様よりご意見いただきたい点④】

受講者の方々から

- もっと対話する講座の方が興味を持てる
- 数人単位でのグループワーク等、意見交換の場があれば良かったというご意見をいただきました。（主に学校、自治体より）

これまでの議論では、グループワークはスティグマ化のリスクがあるため、ワークに関しては全て「個人ワーク」とするという方針で進めておりました。

また、講師に専門性を求めない方針から、質疑応答の時間も設けていませんでした。

については、**スティグマを形成せずに実施できるような、**

グループワーク等に関するアイデアございましたら伺いたく存じます。

※一方で、実施先それぞれで必要性を判断し、適切なグループワークを設計いただく選択肢も考えられるかと存じます

<例：ロールプレイ>

○受講者にロールプレイ形式で1対1の声かけを体験していただく（あくまで演じるのみ）

・隣の人同士で行う、代表して会場前方に出てきて実演いただく など

・悩み、困りごとについてはアドリブで考えていただく

○「どのような声かけをしたか」「声かけされてどのように感じたか」感想を共有いただく

○ロールプレイを踏まえ、「どのような声かけが適切か」「相談に適した窓口は思いついたか」等の気づきにつなげていただく

講座・テキストへのご意見：調査結果のまとめ方について（テキストp14～20）

【委員の皆様よりご意見いただきたい点⑤】

講師の方々から、調査結果のスライドに関して

- 間延びした説明になってしまう
- 本当に必要なスライド以外は箇条書き等でポイントをまとめて省略するのはどうか

というご意見をいただきました。

受講者の方々からも、

- 統計のデータはコンパクトにしたほうが聞きやすい
- アンケート結果やデータの紹介はもう少し簡略化できると思う

とのご意見もいただいております。（主に自治体、企業より）

については、**箇条書きとする方針や、省略するスライドの内容等について、ご意見等ございましたら伺いたく存じます。**

講座・テキストへのご意見 ※検討の上修正いたします

- 全体
 - 孤独・孤立のワードなど負の要素が多く、受講後なにか寂しい気持ちになった（日本生命）
 - →「最後に」のページで「孤独であること・孤立していること自体は決して悪いことではない」ことを強調して伝えるとともに、ポジティブなメッセージを届けるようにいたします
- 孤独・孤立とはどのような状態？（p5）
 - 主観的概念、客観的概念とか難しい（登別市）
 - 「助けのない」という言葉に違和感
- 「日常にあるつながり」の例（p6）
 - ゲートボールではなく現在はグランドゴルフが主流（鶴岡市）
- 一人で声を上げづらい（p8）
 - 日本工学院、鶴岡市、登別市、日本生命
 - 刑余は難しい。読み方や説明の注意書きを加えた方がよい。言い換えるなら犯罪歴？
 - 母子→親子（日本生命）
 - 声を上げづらい理由（迷惑かけたくない...など）も載せた方が良いのでは（鶴岡市）
 - 「...など」がそれぞれ位置が違うので見栄えが良くない

講座・テキストへのご意見 ※検討の上修正いたします

- 調査結果について（p14～20）
 - 鶴岡市
 - 「孤立しているが孤独でない（またはその逆の）人」の数を知りたい
 - 直接質問、間接質問の意味がわかりにくい。わかりやすく書いた方がよい（p14）
 - 「直接会って話す機会が少ない＝孤独」は違うのでは（オンラインで話す人もいる）（p15）
 - 表の見方がわからない（p19）
 - 生駒市
 - 統計のデータはコンパクトにしたほうが聞きやすい
 - セグメントを分けて調査結果を具体的に紹介して欲しい
 - 「相談窓口を知っていても相談できない人」の数を知りたい（日本生命）
 - 月1回未満は珍しくはないのでは？「＝孤独」の根拠は？元データを引用すべきでは（p15）
- 自分が困ったときはどうする？（p23）
 - 親しい人に相談できない悩みなど、もっと困る例の方が良いのでは（日本生命）
- 周囲の人の悩みや困りごとには？（p25）
 - 「～してあげる」が上から目線な表現。気にかかる、聞くという方がよい（生駒市）

講座・テキストへのご意見 ※検討の上修正いたします

- 相談窓口について (p29～32)
 - 日本工学院、鶴岡市、生駒市、日本生命
 - 相談窓口はどういう機関か、どう活用するか（方法や事例）を具体的に知りたい
 - 日本工学院
 - 相談窓口にはお金がかかるか否かを知りたい
 - チャットでの相談の雰囲気を知りたい
 - 窓口やNPOの専門家がどのような人なのかを知りたい
 - どこに相談する？のワークをいれるよりは「この機関ではこういう相談を受けている」「いつでも相談できます」等、相談するメリットを説明してほしい
 - 日本生命
 - 地域や国の専門機関の相談実施（どれだけ役に立っているか）を知りたい
 - 窓口を紹介する際のスマホ操作方法等を知りたい
 - 窓口を利用してどう助かって、いかに悩みが解決されたかという体験談を知りたい（鶴岡市）
- 地域活動 (p33～34)
 - 「社会資源」という言葉が唐突に出てきてわかりづらい（生駒市）
 - 市内のサークル・集まり等の連絡先一覧があるとつながりやすい（登別市）

講座・テキストへのご意見 ※検討の上修正いたします

- アウトプット：デザインに関して
 - 日本工学院
 - 背景が薄オレンジで強調させたい文字が赤が気になった
 - 面白いイラストとかあったらいい
 - オレンジ色の文字、ピンク色の文字、オレンジ色に白抜きは弱視の方、高齢の方には視認性が悪いかも（登別市）
- アウトプット：紙でなくてもいいのではないか
 - 日本工学院
 - スライドがまわるのが早く、ページをめくるのが忙しかった
 - 少しテキストが多かった気がする スクリーンでも十分わかる
 - 日本工学院、登別市、鶴岡市
 - テキストを処分しても良い。紙が勿体無い。両面印刷、ツーアップでも良い
- アウトプット：冊子にしてみてもどうか
 - 生駒市
 - 冊子状態になっていたら保存がしやすい
 - 相談一覧は別でもらえたら、それだけで活用しやすいのではと感じた

講座・テキストへのご意見 ※検討の上修正いたします

- 制度について・今後の本格実施について
 - 登別市
 - サポーターになるだけで良いのか？更なる進化は必要ないのか？
 - つながりサポーターであることが第三者が分かったり、制度の周知・宣伝が必要
 - 未成年や中高生のなり手の確保、獲得が今後の支援体制の構築に重要なのでは
 - 各町内会においてどこの団体が音頭を取るのか、市民のみなさんか、主語を誰が取るのか、どう進めるのか
 - 生駒市
 - 「〇〇サポーター養成講座」の乱立感。差別化は？
 - 認知症サポーターのように専門職から地域で受講できれば良いが、住民が重く感じないように配慮が必要
 - 重層的支援でも同様の動きがあり、目指す先は一緒と思うが、それらがつながっていることがわかると良い
 - 「こころのサポーター研修」と重なる部分があった（相談することの大切さ、相手の話を聞く良い聞き方など）（鶴岡市）
- 受講証について
 - 受講証表面の文章は悩みを抱える側へのメッセージ。別の方が良いのでは（生駒市）

講座・テキストへのご意見 ※検討の上修正いたします

- そのほか
 - 日本工学院
 - 「独りだ」と感じている方でないと聴き続けるのは大変
 - 最初に相談所の紹介があると結果からわかって興味がもちやすいのでは
 - 鶴岡市
 - 現状、実態の話をもっと聞きたい
 - 孤立の認知症の方への関わり方を知りたい
 - 精神障害疑いの方（勝手に孤独を感じている）は相談窓口なのか医療機関なのか
 - そもそも悩みが表出していない人を見つけられない
 - p7：家族は「家族という場所」に統一した方が良いのではと感じました
 - 一般の方には問題ないが、専門職の方々にとっては簡単すぎる（登別市）
 - 生駒市
 - 社会的背景がもう少し詳しくあっても良かった
 - “つなぐ”ことの重要性をもっとアピールしても良いかなと感じた
 - どういう人向けの講座で、サポーターがどういう役割の人なのか（相談に乗る人なのか窓口を案内する人なのか）わかりづらい

- そのほか
 - 日本生命
 - あるコミュニティでは孤独ではないが、あるコミュニティでは孤独の場合、その人は孤独なのかを知りたい
 - つながりサポーターによって改善することができる見通し（効果）を知りたい
 - 孤独孤立により引き起こされる社会課題などを知りたい
 - 政策や行政の問題解決の取り組み（官学取り組み）など周辺情報などを知りたい
 - よくある疑問と想定回答がほしい
 - 支援が必要な人が講座を受けたときにはどう思うかは気になる
 - サポーター自身にもプラスになる（充実度、ウェルビーイングなど＋自分が孤立したときの助けにもなる）点も触れてはどうかと思った
 - “正しい知識”を持ったサポーターと言っているが、“正しい知識”とは何か？
 - 今回の内容であれば企業での実施は30分程度でスピードアップして問題ないと感じた
 - 対話型AIの開発などの対策は？ただそばにいてだけでいいのか？

2. テキスト案(子ども版)のご共有・フィードバック

3. 次年度以降の本格実装を見据えた ディスカッション

分科会 3 幹事団体打ち合わせ アジェンダ

2024 年 2 月 22 日

10 : 00-11 : 00

オ ン ラ イ ン

■本日の打ち合わせ趣旨

- ①R 5 年度の年末年始の孤独・孤立相談ダイヤルの試行実施結果
- ②R 6 年度の孤独・孤立相談ダイヤルの実施について

□①R 5 年度の年末年始の孤独・孤立相談ダイヤルの試行実施結果

- ・今年度の試行実施に関する結果のご報告
(社会的包摂サポートセンター 遠藤事務局長様)

□②R 6 年度の孤独・孤立相談ダイヤルの実施について

- ・実施の方針案について、事務局よりご説明

■次回打ち合わせ